

# 静岡同友会景況調査報告

## 2005年12月期調査・第13回

### 「踊り場脱出するも先行き慎重」

#### 【概要】

景気動向 DI は、プラス 2.7 と05年6月期の調査で「現況は底を脱しきれず、先行きに期待感」と報じたが、景気認識は、6月期マイナス 5.2 からプラスに転じ、景気動向の好転が認められるものになった。04年12月期のプラス 1.6 と比べると 1.1 ポイント増え、景気動向も1年前の水準に少し頭を出した程度の模様になっている。よって、きわめて穏やかに、一抹の不安材料も抱えながらも、景気回復の方向にあるのではないかと多くの経営者が認識している。

日銀静岡支店の調査と比較してみると、中小企業では05年6月期マイナス1が12月期はプラマイゼロとわずかであるが好転している。同友会調査に比較してプラス幅は少なく、前年同月対比でもマイナス1がプラマイゼロでわずかながら好転の兆しを呈している。

先行き見通しについては、6ヶ月先の見通しでは、プラス9と05年6月期プラス 8.5 対比で 0.5 ポイント上がっている。1年先の見通しでは、プラス 10.5 と、景気動向は緩やかな回復を続けるという認識を示している。

DOR(全国の同友会景況調査報告)05年7～9月期は、4～6月期のマイナス7がプラス4と11 ポイント良好し、マイナスがプラスに転じ、この限りでは”踊り場”脱却が果たされたといえる。

しかし、受注は大きく伸びているが、利益は過去の最盛期の10分の1(機械製造業)だといっているように、経常利益動向は05年12期がプラス3.3、05年6月期がプラス0.3、04年12月期のマイナス7.1 に比較すると好転しているがそのテンポは緩慢なものになっている。

総じて、中小企業経営の動向は踊り場を脱却し、先行き少し明るさをましてきたかの感触にあるが、原材料高騰、アメリカの景気動向、経済政策の展開如何によっては景気先行きを懸念せざるを得ない状況もある。

#### 【調査要領】

- ①調査時 2005年12月1日—12月20日
- ②対象企業 静岡県中小企業家同友会、会員企業
- ③調査方法 調査書をFAXとメールで発送、FAXとメールで回収
- ④回答企業数 796社より333社の回答を得た(回答率41.8%)  
(建設業58社、製造業92社、流通・商業53社、サービス業130社)
- ⑤平均従業員 18.9人

#### ◆◆◆ 静岡県中小企業家同友会 ◆◆◆

住所 : 〒420-0033 静岡市昭和町9-8 三木ビル3F  
eメール: doyu@szdoyu. gr. jp

電話 : 054-253-6130  
FAX : 054-255-7620

## I 日本経済をめぐる動向

巷間いわれている日本経済の寸評は「大企業の史上最高の利益の反面、中小、零細企業の多くは相変わらず厳しい現状にある」多くの日本人の常識的経済認識になっていると思われるほど、大企業と中小企業は明暗を分けているといっても過言ではない。

日銀の景況調査では、大企業製造業のDI値がプラス 21 となり、前回9月期調査対比で2ポイントあがり、3. 4半期連続の改善で04年12月期以来最高の水準にある。大企業非製造業もプラス17で2ポイント上昇、中小企業も製造業で4ポイント上昇のプラス7、中小企業非製造業も4ポイント改善のマイナス7となり、マイナスにとどまっています。

全体として景況感は3期連続して改善の傾向を示している。特に大企業の設備投資計画では、前年比 10.4%増と1990年度以来の高水準になっています。

大企業の精密機械が3ポイント、石油・石炭製品が23ポイント増。非製造業でも不動産・通信が伸びを示した反面、食料品・小売・飲食・宿泊など個人諸費関連は悪化しています。

景気動向を政府・日銀は、“踊り場”を脱し回復を続けているとしていますが景況感の改善は小幅で、中小・中堅企業を含めた全体の底上げは今ひとつで回復は弱々しいものと判断されます。

また業種ごとのばらつきも見られ、中小企業庁調査では約7割が赤字企業であるといわれているなか、中小企業は依然ときびしい状況にあると見ることが出来ます。

## II 静岡県経済の景気動向

日銀短観では、業況判断DI値は全産業でプラス9となり前回調査と同水準であり、中小企業DI値はゼロと、初めてマイナスを脱しています。特に大企業の12月期DI値は、プラス29、大企業製造業ではプラス34と好調を呈し、全国動向と比較しても格段の好調さを示しています。これは輸送機械など好調を反映しているものと思われます。

中小企業も水面下を脱したといえるが、中堅企業においては、05年6月期と比較して5ポイント下がっているのが注目されます。全国中小企業製造業との対比では、静岡8ポイント、全国7ポイントとほぼ傾向を同じにして好転していることがうかがわれます。

同友会調査の景気動向認識では、05年6月期マイナス5.2が05年12月期プラス2.7と8.1ポイント上昇しており、同友会製造業はプラス17.4と他業種に比較して抜き出ている。

業種別では、建設・流通が不調の反面、サービス・製造業は好転しているのは全国共通の動きである。

しかし、9月時点の予測値では、好転がさらに続くとなっていたが、調査結果では原油及び原材料価格の高騰などは影響し予測を下回るものになった。

とくに原材料高騰では、県が緊急に対応策をまとめ中小企業への支援を強めることになった。

## III 中小企業家同友会の景況調査

### 概況 一好転するも水面上3ポイント一

景況判断について、05年6月期マイナス5.2が05年12月期プラス2.7と、7.9ポイント上昇し確かな好転を確認できるが、DI値そのものは水面を少し出る程度のものであり、景気の本格的回復は先のものになっている。日銀短観、DI値ゼロと比較して同友会会員の景況感は強気のものになっているのが特徴である。

業種別に見ると、製造業05年12月期17.4ポイント、05年6月期のプラス4.4に比べ13ポイント改善し、製造業の全国的には好転動向を裏づけるものになった。しかし、04年12月期に深くしてみると、04年12月期はプラス20.4であり、その水準まで到達しておらず、中小企業の景況感は一進一退の状況を示している。これを大企業の動向と比較してみると、大企業は04. 12月期から一貫して好調であり、従来の大企業の好調がいずれ裾野にある中小零細企業の景気好転をもたらすものになっていないことが鮮明になってきている。

規模別で検討してみると、51名以上の05年12月期景況感がプラス30.5、11～50名でプラス5.3、1～10名でマイナス5.2と規模の小さくなるに従って景況感は後退している。

地域別に比較すると、西部プラス19.7、東部プラス1.1、中部マイナス7.0となっており、総じて製造業が集積している西部が好況感を呈している。続いて好況は東部となり、流通・サービスが中心の中

部はマイナスとなっている。地域の業種・産業の特性がそのまま景況動向に反映しているものと思われる。

6ヶ月先の景況見通しでは、プラス9.1、1年先の景況見通しではプラス10.5と緩やかに景気は好転していくとの認識を示している。経営上の問題点では、第一位では「販売価格の低下」、第二位に「資金繰り困難」、第三位に「大企業の参入」をあげており、デフレ経済による価格低下、一方原材料の高騰など挟み撃ちの状態にあり、さらに政府系金融機関の統廃合の動きなど、中小企業金融の厳しさが浮き彫りになっている。大企業の参入に4割の企業が直面しており、中小企業の事業分野など、公正な競争条件の確立が求められる。

経営上の力点では、第一位「付加価値の増大」、第二位「新規受注(顧客)確保」、第三位「人件費以外の経費節減」、さらに「社員教育の確保」などと続いた。経営の定石である当たり前の事を当たり前に、基本に忠実に進めることが何より重要といえる。

#### IV 業種別の景況動向

##### [製造]

##### (1)業況判断 ー現況判断大幅に上昇。“踊り場”脱出か?ー

半年前の調査ではプラスながら急激に落ち込み、景気回復も下降局面入りかと懸念されたが、今回は13ポイント上昇し、22.6ポイントとなり全体のDIや他業種を10ポイント以上回っており、製造業が景気回復の牽引車の役割を果たしている状況が反映されている。同時期の日銀短観では製造業が17で同友会調査のDI値と同じであった。

##### (2)先行きの見通し ー半年先は不安ながら、その先は回復傾向の見込みー

現況判断に比して6ヶ月先の業況見通しのDIは4.3と大きく落ち込み直近の先行きには停滞感が感じられる。現況が良いため更なる改善が望みにくいためと思われるが、1年先の見通しではプラス14.2に再浮上し2006年への期待が読み取れる。

##### (3)売上動向 ー引き続き増収傾向を保つー

売上高のDIは15.2と2003年12月以来2年間にわたって増収状況を持続している。前回までは製造業の増収状況が他の業種を大きく上回っていたが今回は全ての業種が増収となり、製造業のみの突出は見られない。今回の調査では35%の企業が「売上増加」と回答し、「売上減少」回答は20%であった。

##### (4)利益動向 ー黒字企業がやや増加したが、増益には至らず停滞ー

経常利益DI(増益-減益)は若干改善し1.1となったがDI値が示すとおり売上は増収が続いているながら利益面では増益とはならない状況が続いている。社数では27%が「増収」、26%が「減収」、残り47%「横ばい」と回答している。直近の利益状態DI(黒字-赤字)は前回より若干好転し42.4となり他の業種を大きく上回っている。回答の59%が「黒字」、25%が「収支トントン」、16%が「赤字」で中小企業の7割が赤字といわれる中においてよく健闘していることを示している。

##### (5)資金繰り ー緩和傾向が続くー

資金繰りDI(余裕-窮屈)は前回に続いて、3.3となりプラスを持続している。金融が緩和している状況下で、製造業の売上を増加するためか、他の業種に比して若干の余裕が見られる。しかし回答の24%は「窮屈」と回答している状況である。

##### (6)設備投資 ー設備投資の予定も順調に増加ー

設備投資計画DIは半年前には若干低下したものの、今回は再び増加し、「予定あり」が48%と「予定なし」の38%を上回り設備投資計画が増加している。設備投資DIはプラス9.8とマイナス値を示す他の業種を20ポイント以上も回っており、製造業では増収と堅調な黒字状態が持続しているため設備投資面でも、景気回復の牽引車の役割を果たしている。

##### (7)労働力動向 ー人手不足感が2年以上続いているー

労働力の充足感DI(過剰-不足)はマイナス19.6と前回同様のかなり人手不足の状態となっている。売上高が2年半にわたって増収を示し、これと時期をどうしてかなりの労働力不足感が続いている。他の業種でもようやく人手不足感が広がっているため、企業県内では求人難や求人倍率の急上昇がみられ、企業にとって人材確保が課題になってきた。4%の企業が「過剰」、24%が「不足」と回答、

47%が「適正」と回答している。この項目は全体のIDと同様な傾向を示している。

#### (8)経営上の問題点・力点 —新規需要開拓と新商品開発で売上回復を—

現状の問題点では前回よりやや減ったものの「販売価格の低下」が62%、「大企業の参入」50%と際立っており、新たに「資金繰り困難」の60%が目立った。経営上の力点では「新規受注(顧客)確保」が45%、「付加価値の増大」が38%と売上増加を目指し、続いて「人件費以外の経費削減」が31%となっている。「人材確保」「社員教育強化」も20%以上の回答となった。

### [建設]

#### (1)業況判断 —昨年12月期より状況は悪化—

業況判断DIはマイナス3.4を示した。05年6月期調査のマイナス7.5と比べると4.1ポイント改善している数値を示している。前回より少し良くなっているが、閑散期と繁忙期がハッキリしている業界で、時系列データでも明白な通り2002年度を除き、6月に比べ12月は改善の結果が出ている。

今回、前年12月との比較で、プラス3.3からマイナス3.4へ6.7ポイント下落し、プラスからマイナスへの転落であることを重視するべきであろう。

#### (2)先行き景気見通し —政策から楽観論は出てこない—

先行き景気見通しDIはマイナス5.2を予想している。05年6月期調査はマイナス3.0で若干の悪化を見込んでいる。業種別では唯一のマイナス数値を示しているのが特徴である。2007年全体の景気見通しDIはプラス0.1を示し、1年ぶりに水面上に達している。

国の予算で公共投資はマイナス3.6%で地方公共団体はさらに大きく減少が予想される。静岡県は今年度200億増収だったが補正予算も組まれないことから、厳しさを覚悟する必要がある。

#### (3)売上高 —苦しい状況のなか大いに健闘—

売上高DIはプラス13.8を示した。05年6月期調査のプラス3.0と比べると10.8ポイントの大幅な改善である。公共投資の削減はいよいよ本格化しているが会員企業は健闘している。

土木に関しては、静岡県では第2東名や静岡空港等進められているが、全国大手とその下請業者に注文がいき、県内業者まで仕事が降りてこない状態がある。

#### (4)経常利益 —増収・増益企業から謙虚に学ぼう—

利益動向DIはプラス1.7を示した。05年6月期調査のマイナス3.0と比べると4.7ポイントの改善が伺え、5年間の調査で初めて水面上に達したのが特徴である。増収・増益企業の結果を分析し、そこから謙虚に学び、実践が必要となる。

#### (5)設備投資動向 —政策の変更が必要—

設備投資DIはマイナス31.0を示し、05年6月期調査のマイナス33.4と比べると2.4ポイント悪化で推移している。増税や各種社会保険の負担増など投資を冷え込ませる要因がある。

#### (6)資金繰り動向 —依然厳しいが想定内とも言える—

資金繰りDIはマイナス13.8を示した。05年6月期調査のマイナス7.6と比べると6.2ポイント資金繰りが厳しくなっている。時系列で見ると4期続いて資金繰りは改善されていたが、今期はポイントが下がった。売上が伸びると資金繰りが大変になる中小企業の実体が反映されている。

#### (7)労働力動向 —正しい解決に向けて、同友会らしく学び理論武装しよう—

労働力DIはマイナス27.6を示し、05年6月期調査のマイナス18.2と比べると9.4ポイント人手不足感が増している。常にギリギリの人数でやっている中小零細の建設業で、売上は伸びている結果、当然の帰結であろう。

#### (8)経営上の問題点と力点 —問題点も力点も地道な経営努力に依拠するのが最善—

経営上の問題点では、第1位「販売価格の低下」(79.3%)、第2位「民間需要の停滞」(48.3%)、第3位「大企業の参入」(43.1%)となっている。現在及び今後の力点では、「新規受注(顧客)確保」がトップで、現在では「人件費以外の経費削減」、今後では「人材確保・情報力の強化・人材の確保」が課題としてあがっている。現在の厳しい状況の克服は人材の育成・活用が命運を握っていると言える。

## [流通・商業]

### (1)業況判断 — 改善傾向に一服感 —

業況判断のDIは、マイナス22.6となり前回に比べて5.7ポイント悪化した。日銀短観(静岡県内)においても卸売がマイナス4と2005年6月期に比べ13ポイント悪化、小売がマイナス18で18ポイント悪化となっている。会員企業のみならず全般的に流通・商業部門は改善傾向に一服感が漂っている。

### (2)先行き景気動向 — 6ヶ月先は久々にプラスに転じる —

先行きの景気見通しについては、6ヶ月先のDIは久々にプラス1.8となり2000年6月期以来のプラスとなった。しかし、来年のDIは依然マイナス3.7となっているが、前回に比べてみれば9.9ポイント改善している。他業種が全てプラスとなっている状況からみると、流通・商業部門の過当競争からくる厳しさが慎重な予想に反映されているものと思われる。

### (3)売上高 — 大幅改善、プラスに転じる —

今回の調査において流通・商業部門もやっとプラスとなり、全産業がプラスとなった。DIが前回のマイナス5.1からプラス15.1と大幅に改善した。今回の調査でこれだけ改善した内訳を見てみると、「売上増加」が43.4%、「売上減少」が28.3%となっており売上が増加している企業の割合が相当増えてきている。

### (4)利益動向 — 利益状況、若干悪化 —

直近期の利益状態DIはプラス22.6となり、4.6ポイント悪化した。前回改善傾向が見られたものの、今回は1年前の水準に戻ってしまった。回答の内容を見てみると、黒字は44.1%が43.4%とほぼ横ばいであるが、赤字が16.9%から20.8%に増加しており、この赤字の増加がポイントを悪化させている。経常利益についても前回初めてプラスに転じたが、今回はマイナス1.9となり悪化した。日銀短観においてもマイナスに転じており、利益状況は予断を許さない状況が続いている。

### (5)設備投資動向 — 若干改善も、依然低水準 —

設備投資のDIは、前々回のマイナス24.4、前回のマイナス22.0、今回マイナス17.0と依然低水準ではあるが着実に設備投資DIは改善されつつある。設備投資について「予定あり」は32.1%、「予定なし」は49.1%となっている。前回に比べれば少しずつではあるが投資意欲は回復しつつある。

### (6)資金繰り動向 — 依然状況は改善されず —

資金繰り動向はDIが前回のマイナス13.5からマイナス15.1と若干悪化した。ここ数年の傾向から見て今回の水準が平均値といえる。資金繰りが「普通」と回答した割合は今回も58.5%あり、状況が極端に悪化しているわけではないが、中小企業にとって資金繰りの問題は永遠のテーマでもある。

### (7)労働力動向 — 労働力不足が鮮明に —

労働力DIは、前回のマイナス11.8からマイナス24.5となり労働力不足の状況が鮮明になってきた。労働力が「過剰」と回答した企業はたった1.9%であるのに対して「不足」と答えた企業は26.4%もあり、雇用調整は完了し、むしろ売上の増加に伴い人手不足の状況が増加してきている。

### (8)経営上の力点・問題点 — 不況時にも動じない財務体質を —

経営上の問題点については、「販売価格の低下」が69.8%と相変わらず目立つものの若干低下してきた。それに続く「民間需要の停滞」も前回から大幅に低下して39.6%、となり売上需要が増加してきている状況を物語っている。

現在の経営上の力点については「付加価値の増大」が49.1%、「新規受注(顧客)確保」が47.2%となり、黒字化あるいは利益増加を達成しようとする意欲が見られる。今後の経営上の力点については、「財務体質の強化」が34%となっており、不況時にも動じない財務体質に変えようとする会員企業の鼓動が感じられる。

## [サービス]

### (1)業況判断 — 景気回復のすそ野にたどり着く —

日銀・静岡支店が12月に発表した短観では、サービス業の業況はプラス33ポイント、昨年同期対比プラス8ポイントである。一方、静岡県中小企業家同友会のサービス業の業況も同期比較8ポイント改善され5.4ポイントプラスとなった。日銀は2年前の2003年12期からプラスに転じて以後プラ

ス推移となっているが我が同友会は今回調査で始めてプラスに転じた。政府発表の「景気回復のすそ野が広がってきている」という「すそ野」というのが我々同友会なのだろうか。

#### (1) 景気の先行き見通し —プラスに転じる—

景気が「良くない」とする見方は5年ほど続いたが今回始めてプラスに転じると共に半年先は21.5プラスになるとしている。来年については18.5ポイントプラスになるとしている。サービス業は旧来楽観的な展望を描いていたが今回は各種要素について良い数字に転じたことで現実的期待感が出てきたようだ。

#### (3) 売上高 —混迷から脱出か—

4期連続プラス。前3回の調査においては6ポイント内外の迷走的なプラスであったが、今回の調査では全体の40%の企業が「増加」と答えている。また、他の3業種が10%台であるの対して、サービス業は21.5ポイントと他のグループを圧倒的にリードして、自信を深めているようだ。混迷からの脱出が本物かどうかは「増加」と意思表示する企業が50%を超えるかどうかにか因るのではないだろうか。

#### (4) 経常利益 —景況調査始まって以来初めて連続プラス—

2005年6月期のDI値は3年振りにプラスに転じ、今回は連続プラスの7.7ポイントであった。同友会景況調査が5年前に始まって以来始めて、連続プラスを示した。内容的には回答企業の75%が「横ばいないし増加」という回答を得ている。ほとんどの企業が悲壮的な状況を脱却しつつあるようだ。

#### (5) 資金繰り動向 —普通グループの改善—

資金繰りのDI値はマイナス13.1と、前回2005年6月期マイナス18.4ポイントから5.3ポイント改善した。前回の調査で「資金繰り窮屈」と答えた企業が26.5%。今回の調査では26.9%の企業が窮屈と答えており、その比率はほぼ同じである。資金繰りが良化した理由は「普通」と答えた企業が「余裕あり」に転じたためであり、まだ4分の1の企業が資金繰りは大変と感じている。サービス全体としては、ここ5年間水面下であることには変わりはない。

#### (6) 設備投資動向 —意欲は向上しかし内容的には消極的—

サービス業のDI値はマイナス9.2ポイント。前回調査より10.6ポイント投資意欲は向上した。前回「予定なし」と答えた企業の割合が52.2%であったのが今回は47.7%と低下した。徐々に設備投資意欲は出てきているようだがプラスに転ずるまでは時間が掛かりそうである。

#### (7) 労働力動向 —労働力不足感は過去最高—

労働力を不足と感じるDI値は33.8ポイント。12月期の調査の特徴として労働力不足感は出易いのであるが今回は最高値を示した。「過剰」と答えた割合は5.4%であり、ほとんどの企業が「適正」ないし「不足」という状況である。同友会の場合、アンケートの回答は経営者に依存するケースが多い。すなわち、経営者にとっての労働力不足感は「経営上の力点」にも反映されているが、経営者の右腕になる「人材」が欲しいところである。長引く不況から人材投資に保守的であったサービス業も雇用確保に一歩進んだ展開が期待される。

#### (8) 経営上の問題点・力点 —社員教育を重心に置く企業が増えてきた—

販売価格の低下を懸念する声が多く、次いで民需の停滞、大企業の算入、資金繰り困難と続いている。半年前の状況と変わらないが、販売価格の低下を懸念する声が多く58.1ポイントある。原油価格の高騰に伴い石油製品原材料の値上げで売価は上げられない現状を反映している。企業防衛として、新規受注(顧客)の確保、付加価値の増大、人材確保人件費以外の経費削減、社員教育の順になっている。昨年12月期を境に「付加価値の増大」と「新規受注(顧客)の確保」の順位が入れ替わり、今回も「新規受注(顧客)の確保」が第1位となった。また、社員教育の比率が15.4ポイントから21.3ポイントに上昇したことも注目される。

## V 地域別の景気動向

### [東部]

#### (1) 業況判断 —そこそこ含め持ち直しの気配—

05年6月期は大きく反転してDI値はマイナス18.5ポイントを記録し、強い危機感が出ていたが、この12月期は「そこそこ」を含めて業況はやや好転。DI値も1.1ポイントのプラスに戻った。ここ1年

で、県下で最も厳しい地域という状況は脱した感がある。

### (2)先行き景気見通し —さらに膨らむ期待感—

6ヶ月後の景気予測はプラス9.4、1年後については同14.3と、先行きには大きな期待感がにじみ出ている。この予測値は、05年6月期のそれぞれ7.6、8.2に対して約2～6ポイントも伸びており、景気動向に対して強気な読みをうかがわせる。売上高の大幅上昇が背景にあると考えられる。

### (3)売上高 —改善傾向、さらに確かなものに—

各前期比でみると、東部地区は05年12月期まで6期連続の上昇を示し、改善傾向がさらに確かなものになっている、との印象を強くする。「横ばい」は全体では4割ほどとなっており、「増加」の回答はほぼこれに匹敵するほどまで伸びてきた。問題は、収益の動向だ。

### (4)利益動向 —増収、増益傾向を維持する—

直近期の利益状態DI値は、プラス27.6。(前期は同29.9)。依然として良好なレベルにあることが伺えるが、経常利益についても、DI値はプラス5.5ポイントと県下では最も良い数値を記録した。まだ安定的な傾向ではないかもしれないが、増収が増益につながる傾向を維持していると見られる。

### (5)設備投資動向 —一層の改善動向示す—

DI値は04年6月期にマイナス28.3を記録し00年以降最も厳しい状態を示したが、04年に入って徐々に改善傾向。12月期DI値はマイナス5.0ポイントで、一層の改善傾向を示したと言えよう。県下全体のマイナス9.0よりかなり好転した。しかし、景気動向が設備投資に反映するにはいままの注視が必要のようだ。

### (6)資金繰り動向 —なお窮屈だが、やや好転か—

増収、増益傾向にあるものの、資金繰りにおいては、なお窮屈感は脱しきれず、DI値はマイナス7.2ポイントと、依然としてマイナスで推移しているのが実情だ。ただ、一進一退はあるとしても、6月期に比べるとDI値は5.5ポイントの改善となり、窮屈な中にもやや好転の気配もうかがわせる。

### (7)労働力動向 —悩み深い人手不足—

労働力動向は、県下東・中・西でDI値はほとんど横一線に並んだ。全体のDI値はマイナス27.3ポイント。東部は同27.6で、05年6月期の同21.2からさらに悪化していた。売り上げ動向が好転している状況の中で、人手が充足しないことは厳しいが、このような事態はちょうど1年前から特に顕著になった。このことは、次の「経営上の力点」ともリンクすることになる。

### (8)経営上の力点・問題点 —価格低下のなか、「人材」確保に意欲—

現在の問題点の第1位は、「販売価格の低下」。次いで、資金繰り困難、民間需要の停滞と続く。現在の力点の第1は付加価値の増大、次いで新規受注の確保、人件費以外の経費の削減。今後については、現在の力点とほぼ同じだが、「人材確保」も上位に浮上している。

## [中部]

### (1)業況判断 —地域別では唯一のマイナス—

業況判断DIはマイナス7.0を示した。05年6月期調査のマイナス13.8と比べると6.8ポイント改善するものの、地域別では唯一のマイナス数値である。

### (2)先行き景気見通し —プラスながらも急降下—

先行き景気見通しDIはプラス5.8を予想している。05年6月期調査のプラス18.0と比較すると、水面上ながらも先行き不安が募る数値を示している。2007年全体の景気見通しDIはプラス3.5を示し、前回調査のプラス21.1と比べると急降下の数値を示している。

### (3)売上高 —ニケタのプラスまで改善—

売上高DIはプラス12.7を示した。05年6月期調査のプラス6.3と比べると6.4ポイント改善している。

### (4)利益動向 —水面上への厳しい道のり—

利益動向DIはマイナス1.2を示した。05年6月期調査のマイナス6.3と比べると5.1ポイント改善するものの、地域別では唯一のマイナス数値を示している。

### (5)設備投資動向 —投資意欲はいよいよ回復—

設備投資DIはマイナス1.2を示し、05年6月期調査のマイナス18.9と比べると17.7ポイント大幅に設備投資意欲が改善している。資金繰りの数値に影響を与えていると予想される。

#### (6)資金繰り動向 ー厳しい数値を示すー

資金繰りDIはマイナス16.3を示した。05年6月期調査のマイナス8.5と比較すると7.8ポイント悪化してる。他の地域はマイナスながらも改善しているのと対照的である。

#### (7)労働力動向 ー二ケタの不足感2年間続くー

労働力DIはマイナス26.7を示し、05年6月期調査のマイナス17.9と比べると8.8ポイント人手不足感が増している。

#### (8)経営上の問題点と力点 ー財務体質の強化が課題ー

経営上の問題点では、第1位「販売価格低下」(62.8%)、第2位「資金繰り困難」(50.0%)、第3位「大企業の参入」(41.9%)となっている。現在及び今後の力点では、「新規受注(顧客)確保」がトップで、現在では「付加価値の増大」、今後では「人材確保」が課題としてあがっている。

### [西部]

#### (1)業況判断 ー好調な数値を示すー

業況判断DIはプラス19.7を示した。05年6月期調査のプラス5.5と比べると14.2ポイントの二ケタ改善の数値を示している。

#### (2)先行き景気見通し ー好調なるも先行きに不透明感ありー

先行き景気見通しDIはプラス12.2を予想している。05年6月期調査のマイナス1.4と比べると13.6ポイント二ケタの好調な見通しを示している。2007年全体の景気見通しDIはプラス9.0を示し、1年後は楽観視できない状況がうかがえる。

#### (3)売上高 ー大幅な改善をみるー

売上高DIはプラス19.6を示した。05年6月期調査のプラス1.4と比べると18.2ポイント二ケタ改善の好調な数値を示している。

#### (4)利益動向 ー水面上まで回復ー

利益動向DIはプラス3.0を示した。05年6月期調査のマイナス4.1と比べると7.1の改善傾向が伺える。

#### (5)設備投資動向 ー投資意欲の希薄が4.5年続くー

設備投資DIはマイナス30.3を示し、05年6月期調査のマイナス24.7と比べると5.6ポイント投資意欲が後退している。地域別では最低の数値で、他の指標が堅調なのと対照的である。

#### (6)資金繰り動向 ー浮上の期待感ありー

資金繰りDIはマイナス4.5を示した。05年6月期調査のマイナス8.2と比べると3.7ポイント改善するものの依然水面下である。

#### (7)労働力動向 ー恒常的な人手不足が続くー

労働力DIはマイナス27.3を示し、05年6月期調査のマイナス16.4と比べると10.9ポイント人手不足感が増している。この傾向は全地域同じである。

#### (8)経営上の問題点と力点 ー人材確保や社員教育に注力ー

経営上の問題点では、第1位「販売価格低下」(66.7%)、第2位「資金繰り困難」(48.5%)、第3位「大企業の参入」(37.9%)となっている。現在及び今後の力点では、「新規受注(顧客)確保」がトップで、現在では「付加価値の増大」、今後では「人材確保」「社員教育の確保」が課題としてあがっている。

## VI 規模別の景気動向

### [1~10人]

#### (1)業況判断 ー流れとしては明るい見通しー

業況判断DIはマイナス5.2を示した。05年6月期調査のマイナス10.2と比べると5ポイント回復している。他の指標が回復傾向にある中の数値として気がかりである。

#### (2)先行き景気見通し ー初めての2期連続プラス数値ー

先行き景気見通しDIはプラス10.5を予想している。05年6月期調査のプラス10.2と比べると同じ水準で推移している。2期連続二ケタのプラスは初めて。2007年全体の景気見通しDIはプラス7.6を示し、低下傾向を示している。

### (3)売上高 ー大幅な回復をみるー

売上高DIはプラス12.2を示した。05年6月期調査のプラス1.6と比べると10.6ポイント二ケタの改善をみている。05年の水面上の回復は3.5年ぶりである。

### (4)利益動向 ー4年ぶりに水面上に浮上ー

利益動向DIはプラス2.3を示した。05年6月期調査のマイナス2.1と比べると4.4ポイント改善している。今期の水面上の回復も3.5年ぶりである。

### (5)設備投資動向 ー際立つ投資意欲の冷え込みー

設備投資DIはマイナス26.7を示し、05年6月期調査のマイナス35.8と比べると9.1ポイント回復している。過去3年間、一貫して二ケタのマイナス数値を示し、依然設備投資に資金がまわらない状態が伺える。

### (6)資金繰り動向 ー悪化傾向を示すー

資金繰りDIはマイナス13.4を示した。05年6月期調査のマイナス10.7と比べると2.7ポイントわずかに悪化している。他の規模とは違う傾向を示し、薄利の商売で善戦している様子が想定される。

### (7)労働力動向 ー慢性的な人手不足ー

労働力DIはマイナス24.4を示し、05年6月期調査のマイナス20.9と比べると3.5ポイント人手不足感が増している。過去3年間、一貫して二ケタのマイナス数値を示し、慢性的な人手不足の経営が強いられていることが伺われる。

### (8)経営上の問題点と力点 ー人件費以外の経費削減が課題ー

経営上の問題点では、第1位「販売価格低下」(62.2%)、第2位「民間需要の停滞」(48.3%)、第3位「資金繰り困難」(37.8%)となっている。現在及び今後の力点では、「新規受注(顧客)確保」、「付加価値の増大」と続き、現在では「人件費以外の経費削減」、今後では「人材確保」を重視している。

## [11~50人]

### (1)業況判断 ー上向きの流れ。久々に水面上へ浮上ー

業況判断DIはプラス5.6を示した。05年6月期調査のマイナス3.3と比べると8.9ポイント改善をみている。水面上への回復は4年ぶりである。

### (2)先行き景気見通し ー将来は明るい流れで現状維持ー

先行き景気見通しDIはプラス3.2を予想している。05年6月期調査のプラス1.7と比べると1.5ポイントわずかに回復している。2007年全体の景気見通しDIはプラス8.8を示し、明るい見通しをしている。

### (3)売上高 ープラス値拡大なるかー

売上高DIはプラス17.6を示した。05年6月期調査のマイナス1.7と比べると19.3ポイント二ケタの大幅な改善を示している。

### (4)利益動向 ー水面浮上なるが定着するかー

利益動向DIはゼロを示した。05年6月期調査のマイナス8.1と比べると8.1ポイント改善しているものの、規模別では最低の数値を示している。

### (5)設備投資動向 ープラスとマイナスを繰り返すー

設備投資DIはプラス4.0を示し、05年6月期調査のマイナス2.4と比べると6.4ポイント回復している。昨年12月期も水面上に出たこともあり、少しずつ投資意欲が増すことが予想される。

### (6)資金繰り動向 ー依然二ケタのマイナスをしめすー

資金繰りDIはマイナス10.4を示した。05年6月期調査のマイナス18.6と比べると8.2ポイント改善している。回復基調にあるものの、依然厳しい状況が続いている。

### (7)労働力動向 ー人手不足感増すー

労働力DIはマイナス24.8を示し、05年6月期調査のマイナス12.1と比べると12.7ポイント人手不足感が二ケタの伸びで増している。

### (8)経営上の問題点と力点 ー付加価値と人材に傾注ー

経営上の問題点では、第1位「販売価格の低下」(63.2%)、第2位「資金繰り困難」(54.4%)、第3位「大企業の参入」(48.0%)となっている。現在及び今後の力点では、「新規受注(顧客)確保」が

共に 1 位で、現在は「付加価値の増大」、「人件費以外の削減」、今後は、「社員教育の確保」、「人材確保」「付加価値の増大」と続いている。

#### [51人以上]

##### (1) 業況判断 —83%が“悪くない”の答え—

業判断DIはプラス 30.5 を示した。05 年 6 月期調査のプラス 12.2 と比べると 18.3 ポイント大幅な強含みの数値を示している。この規模では完全に好景気に突入している。

##### (2) 先行き景気見通し —先行きも磐石に推移—

先行き景気見通しDIはプラス 22.2 を予想している。05 年 6 月期調査のプラス 21.9 と高い水準で推移している。2007 年全体の景気見通しDIはプラス 30.5 を示し、まだまだ来年も好景気が続くともみている。

##### (3) 売上高 —“減少”は 11%だけ—

売上高DIはプラス 41.7 を示した。05 年 6 月期調査のプラス 46.4 と比べると若干数値を落としていいるが、売上高増加企業が半数を超えており絶好調な様子が伺える。

##### (4) 利益動向 —3期連続二ケタのプラス—

利益動向DIはプラス 19.5 を示した。05 年 6 月期調査のプラス 36.6 と比べると 17.1 ポイント悪化している。高いプラスの数値を示すものの、利益が減っている様子が伺える。

##### (5) 設備投資動向 —高い投資意欲を持続—

設備投資DIはプラス 30.5 を示し、05 年 6 月期調査のプラス 24.4 と比べると 6.1 ポイント改善している。昨年 12 月期調査より二ケタの高い設備投資意欲が示されている。

##### (6) 資金繰り動向 —良好な傾向—

資金繰りDIはプラス 16.7 を示した。05 年 6 月期調査のプラス 17.1 と同じゆとりのある水準で推移している。

##### (7) 労働力動向 —労働力不足が深刻化—

労働力DIはマイナス 50 を示し、05 年 6 月期調査のマイナス 34.1 と比べると 15.9 ポイント人手不足感が増している。この規模では人手充足感が過剰企業がゼロで 2 社に 1 社は人材を欲していることを示している。

##### (8) 経営上の問題点と力点 —キャッシュフローを模索—

経営上の問題点では、第 1 位「資金繰り困難」(72.2%)、第2位「販売価格低下」(55.6%)、第 3 位「大企業の参入」(41.7%)となっている。高い売上高の伸びからキャッシュ不足の様子が伺える。現在及び今後の力点では、「人材確保」、「社員教育の確保」と続き、現在では「付加価値の増大」、今後では「財務体質の強化」が課題としてあがっている。

政策委員会(平尾吉章委員長)が実施した今期の景況アンケートは、以下の  
県同友会政策委員並びに事務局員が共同執筆し取りまとめました。

遠藤 一秀 (遠藤科学㈱社長)	製造
山川 安豊 (静岡重機建設工業組合)	建設
太田 朝夫 (太田会計事務所長)	流通
平尾 吉章 (平尾吉章税理士事務所所長)	サービス業
小山 忠之 (自治政策研究所長)	地域別
近藤 良夫 (近藤会計事務所所長)	規模別
青木 茂 (静岡同友会専務理事)	概況・業績別